

3. 2024年度男女共同参画委員会 活動のまとめ

1. 2024年度 委員会構成 理事 8人

2. 2024年度の活動

(1) 活動方針

男女共同参画社会のありたい姿（性別に関係なく、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会）をテーマに、社会や組合員の生活場面での「気づき」や、職員の労働環境における男女共同参画をすすめるための取り組みをすすめました。

(2) 2024年度の取り組み

①男女共同参画委員会では、年間を通して「ウェルビーイング経営」について学習をすすめ、組織としてのありたい姿をまとめました。

「ウェルビーイング経営」とは、職員の誰もが、生き活きとつながりを持って働く結果として、創造的で生産性の高い職場となっている状態を指すものです。「組織のウェルビーイング」とは、職員、組合員、取引先等、あらゆる関係者との良好な相互関係を実現しながら、組織が成長している状態をいいます。

こうした学習を通じて委員会としてまとめた「ありたい姿」は、「職員ひとり一人が生協で働くことの意義や目的を鮮明に持ち、モチベーション高く、業務を通じて組織人として成長し、結果として組合員の暮らしに貢献できる組織でありたい。」というものです。ありたい姿を実現するために、「人材育成の強化」「風土の醸成と環境整備」「内外広報の充実」について、理事会に答申しました。

②男女共同参画社会のありたい姿（性別に関係なく、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会）をテーマに、社会や組合員の生活場面での「気づき」になるようなコラムを機関誌に掲載しました。

男女共同参画委員会だより

人生100年時代『貢献寿命』とは？

「老年学（ジェロントロジー）」が目ざされています。加齢に伴う心身の変化を研究し、個人と社会の様々な課題解決をめざすものです。かつては「平均寿命」「健康寿命」のように寿命を長くすることが注目されてきました。しかし近年は、高齢者の生活の質向上などへテーマが広がり、「貢献寿命」の研究が注力されています。

何歳になっても社会とつながり、自身が役割を持って誰かの役に立っていると感じられるか。それは就労による貢献だけでなく、

- ・互助的貢献（ボランティア、家族や知人らへの手助け）
- ・経済的貢献（消費、納税、寄付）
- ・継承的貢献（スキルや経験を伝える）
- ・精神的貢献（いるだけで家族の心の支えになる）

まで広がります。

人生100年時代、老後の不安を希望に変え、真に長生きを喜べる社会を実現していきたいです。



男女共同参画委員会だより

共生の社会をめざす「新しい認知症観」とは？

2024年1月「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。古い認知症観「認知症になったら何もできなくなる。記憶機能が低下し、迷惑をかける」から、新しい認知症観「認知症になっても、できることはたくさんある。住み慣れた地域で仲間とつながりながら、役割を果たして共に生きることができる」というように、人権重視の視点にシフトしています。医学が進歩する中で、大きな転換期を迎えました。

今後、高齢者のおよそ5人に1人が認知症になると予測されており、これから生活や仕事の中で認知症の人と接する機会が増えていきます。地域の自治体や関連団体では、「認知症サポーター養成講座」を開催しており、認知症対応の心得やポイントを学ぶことができます。身近な人のために受講し、認知症への理解を深めていきたいと思います。



右記の二次元コードから、過去の男女共同参画委員会だよりを見ることができます。

